

○菊地恵一委員長 続いて、無所属の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて五分です。中島源陽委員。

○中島源陽委員 令和八年度政策財政運営の基本方針（素案）を読みながら、少子化、少子化という言葉が冒頭の目的と方向性の二十四行の間に五回出てきています。それはそれだけ重要だという認識を共有したいとは思いますが、それだけそういう言葉が出てくると、私の直観的な思いとして、若者に見えない圧力をかけていないだろうかというふうに思いました。人口減少対策として結婚支援をします、県内就職支援をします、関係人口や交流人口を増やしますという、そういう何かこう悲観的根拠に基づいて政策を展開されるとすると、それは特に若者の共感を私はなかなか得られないのではないかというふうに思っています。そういう意味では、むしろ一人一人の幸せを最大化する宮城県であるという夢を描いて、そこに向かった結果として、人口減少にも対応していくという逆転の発想が必要ではないかというふうに考えますがいかがですか。

○村井嘉浩知事 我が県の人口減少は、今後加速することが想定されている中で、その対策を講じるに際しましては、人口の多寡や減少のスピードのみに着目するのではなくて、それぞれの県民がそれぞれの地域で自らの能力を発揮することを通じて、持続可能な県土をつくり上げていくという視点が重要だというふうに思います。そのため、私は、新・宮城の将来ビジョンにおいて、人口減少が進む中でも「多様な主体の連携により、これまで積み重ねてきた富県宮城の力が更に成長し、県民の活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、東北全体の発展にも貢献する、元気で躍動する宮城」、そして「県民一人一人が、安全で恵み豊かな県土の中で、幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城」という将来像を掲げまして、様々な政策を推進してまいりました。引き続き、自然増対策と社会増対策の両面から取組の充実を図り、それぞれの地域が活力を維持しながら持続的に発展できるよう、全庁一丸となつて人口減少対策に取り組んでまいりたいと思います。若い人にプレッシャーをかけるということがあつてはならないというふうに思っておりますので、好んで宮城に住み続けていただけるような、来ていただけるような、そういう施策を考えていきたいというふうに思います。

○中島源陽委員 次に、お米のお話であります。需要に応じた宮城米の生産という表現がありました。この言葉はごもつとものように聞こえるのですが、縮小再生産にも受

け止められます。そういう意味で、宮城米の需要の開拓とともに選ばれる宮城米の生産というふうに積極的な方向性に変えてはいかがですか。

○石川佳洋農政部長　主食となりますお米につきましては、食料安全保障の観点から生産者が安心して営農を継続できるよう、国による制度の高い需給見通しに基づき生産に取り組むことが重要であると認識してございます。その上で、人口減少や少子高齢化の進展、また昨今の気候変動やライフスタイルの変化に伴います食生活の多様化等を踏まえた県産米においては、生産から流通、販売に至るまで社会情勢や様々なニーズに対応した取組が必要と考えております。このため県では、中長期的な視点に立ち、高温耐性に優れた新たな品種の開発をはじめ、JAグループ等と連携した県内外での各種広報宣伝活動のほか、生産者の方々と食品事業者の方々が連携した県産米等を活用しました新たな商品開発等を支援するなど、各種事業や施策を展開していくことで、需要の拡大創出に努めているところでございます。県といたしましては、今後とも試験研究機関におけます研究開発を進めていきますとともに、関係機関、団体と連携し、輸出向けといった様々な用途への取組拡大や、積極的なPR活動を展開していくことで、米の主産県として実需者や消費者に選ばれる宮城米づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

○中島源陽委員　基本方針——まさにある意味では知事の方針でもあり、県としての方針であると思います。このことが、今後の県民との対話を通じて県民の夢や希望に育てていくことを期待して、私の質疑を終わります。